

令和6年度 前年度の改善方策について実行した改善結果

世田谷区立駒繫小学校長 佐々木 克二

重点目標1 互いのよさを認め合い、自分も他人も大切にする心豊かな子どもの育成

基本的な生活習慣及び学習習慣の定着を図り、児童自ら考えて行動できるようにした。特に「気持ちのこもったあいさつをする」「相手に心を向けて話を聞く」「時間を大切にする」といった基本行動を「こまつなぎスタンダード 2024」として徹底してきた。全校朝会では、月ごとに「あいさつ宣言」を全学年で行うなど、児童のあいさつへの意識付けを強化してきた。

数値目標としていた「私は、すすんであいさつをしている。」の肯定的評価80%に対し、令和6年度の児童の肯定的評価は90%と、目標を大きく達成することができた。

学校いじめ対策委員会を中心に、組織的に対応する中で、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめをしない、させない、許さない」の共通理解を図ってきた。「学校生活についてのアンケート」や「WEBQU」、スクールカウンセラー全員面接等を生かしたり、専門機関と連携した教育相談体制を充実させたりして、いじめや問題行動等の未然防止や早期発見、早期対応、早期解消を行ってきた。

数値目標としていた「学校生活は楽しい。」の肯定的評価80%に対し、令和6年度の児童の肯定的評価は92%と、目標を大きく達成することができた。

重点目標2 学ぶ意欲をもち、主体的に自分の考えや思いを表現し、多様な他者と協働しながら新たな考えをつくる児童の育成

校内研究・研修を軸に、教師主導の授業から脱却し、子どもが主体的に学び取るという授業改善に取り組んだ。各教科等の授業において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を関連付けながら、課題解決し、学びを振り返って次の問題発見・解決が発展的に繰り返される過程を大切にしたい探究的な学びを進めてきた。探究的な学びの過程で、情報を収集・整理・発信する、他者との協働的な取組等の学習活動で適切かつ効果的にICT教育機器を活用した。

数値目標としていた「授業では、話し合ったり発表し合ったりする機会がある」の肯定的評価90%に対し、令和6年度の児童の肯定的評価は91%と、目標を達成することができた。また、「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」の肯定的評価の数値目標90%に対し、令和6年度の児童の肯定的評価は94%と、目標を達成することができた。

重点目標3 様々な運動に取り組み、体を動かすことの楽しさを味わう児童の育成

年間を通してなわとび運動に取り組んできた。なわとび演技のエキスパートをゲストティーチャーとして招き、児童になわとびに興味・関心をもたせ、意欲的に取り組ませてきた。また、縦割りでのなわとび活動や、なわとび運動の指導員・上級指導員制度を基に、なわとび検定カード、月に1度中休みの「エンジョйнаわとび」等を活用して個人の目標を掲げ、その達成に向け粘り強く取り組ませ、その成果を12月に「なわとびコンクール」として、保護者参観の下で実施した。

数値目標として、「なわとび運動に取り組んだ」「休み時間は外で元気に遊んだ」の児童の肯定的評価を70%以上としていたが、今年度は学校独自項目の精査を行ったため、数値での結果は出ていない。